

令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	10	学校名	仙台市立連坊小路小学校	校長名	藤原 秀晃
------	----	-----	-------------	-----	-------

- 1 取組のタイトル, テーマ
シンボル「イチョウの木」を大切に



2 取組の紹介

(1) 連坊小のシンボル, イチョウの木の落ち葉拾い

環境委員会と緑化委員会合同で、今年度も連坊小のシンボルであるイチョウの木の落ち葉拾いを企画しました。例年よりも暑い時期が長く、葉がなかなか落ちない日々でしたが、寒くなるとあっという間に、校庭が黄色く染まりました。葉がたくさん落ちてると、滑ったり転んだりして危ないこと、落ち葉が側溝や雨樋に詰まって水が流れなくなる危険性があるということから、環境委員会と緑化委員会が中心となり、全校児童が3日間に分かれて、作業をしました。

1年生は初めての取組でしたが、6年生から教えてもらい、上手に落ち葉を拾い、きれいにすることができました。皆で協力して、どんどんきれいになっていく様子を見て、環境のためになることができたこと、達成感を得ることができました。



校舎側から見たイチョウ (児童撮影)

(2) 校庭の落ち葉を使って、「落ち葉アート」

年度当初の緑化委員会の活動で、子供たちから、落ち葉拾いで拾った落ち葉を使って、「落ち葉アート」をしたいとの声が上がりました。日常的に、花への水やりや雑草抜きなど、植物を大切にする気持ちのある子供が多く、非常に感心しています。計画していた通り、校庭に落ちている葉を拾い、十分に乾燥させたうえで、作品を作っていました。

連坊小のマスコットキャラクターである「いちょっぴ」を、たくさんのイチョウの葉を使って描く児童や、イチョウや紅葉などの落ち葉を他のものに見立てて、絵を描く子供もいました。それぞれの子供たちが楽しみながら、自分の作品を完成させました。作品を見た友達や先生たちからも好評で、委員の子供たちもうれしそうでした。



「落ち葉アート」

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

- (1) 自分たちの学校のシンボルであり、子供たちも大切にしているイチョウの木の周りをきれいにする活動を通して、豊かな心を育み、環境のためによいことができたという達成感を得ることができました。
- (2) 地面に落ちているただの落ち葉ですが、それをういて作品として完成することができて、それを見た下学年の子供たちから「やりたい!」という声があがるなど、子供たちの活動に広がりが見られました。